

平成19年度 井田こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	井田こども文化センターの管理運営に関すること 井田小学校・下小田中小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	こども会議の開催による意見収集、保護者懇談会で出される意見の収集、乳幼児サークル代表者からの意見収集、運営協議会の委員による地域住民からの意見収集に加えて、新たに意見箱の設置を行いわくわくプラザ、こども文化センターとも利用者の把握に努めている。出された意見は、職員会議や運営協議会において検討され、可能なものは、要望を取り入れている。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	行事の企画をする際に、意見箱や子ども会議の意見を参考にし、内容は出来るだけ多くの人に参加できるものを基本とし仲間作りができるよう工夫した。貸館の申請は1ヶ月まとめて申請できるよう便宜をはかった。図書の本出しはカードを工夫し沢山読んだらプレゼントがもらえることにし利用を増やした。お勧め図書の案内もした。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。また、1つのクラブ活動を実施し、事業の充実に努めていた。

事業の実施に関する こと	井田シネマ、料理教室、工作、スポーツ タイムなどの毎月の行事に加え、夏のミ ニ縁日（祭り）と冬の運協合同祭りなど 多様な行事が開催でき、多くの人に楽し んでもらえた。また乳幼児親子向けの料 理教室、工作教室、プールなどの行事も 好評だった。野外活動は、合同行事で 行った他、単館で2回行った。	運営協議会等との連携により地 域のニーズに合った行事を実施 したことは評価できる。今後 も、ボランティアの活用に努め ること。
個人情報の取扱に関す ること	財団法人かわさき市民活動センターの個 人情報保護方針および情報システム運用 要綱に基づき適正に取り扱う。具体的 には必要最低限の情報収集とする。入館状 況調査表、施設利用申請書、わくわくプ ラザ申込書、子育て支援わくわくプラザ 事業利用申込書、定期的な利用予定書、 障がいのあるお子さんについてのアン ケート、参加名簿などは、鍵のかかる キャビネットに保管し外部に持ち出さ ない。児童の個人情報の問い合わせは、場 合により応じない。講師の個人情報は本 人の同意を得てから提供する。不要に なった情報はシュレッターにかける。	個人情報の取扱については、概 ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関す ること	こども文化センターの館内および園庭の 見回りを定期的に行い危険な箇所がない か点検する。学校、PTA、運営協議会、保 護者との連携をとり、地域の安全の確保 に努め、不審者情報などの共有化を図り 協力して対応した。	毎日の清掃や始業時の点検を行 い、安全性に努めている。ま た、井田小学校・下小田中小学 校わくわくプラザにセンサーラ イトを設置し、より安全性を高 めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化 センター	延べ利用者数 25,947人 延べ団体利用数 6,703団体 (主な行事等) スポーツタイム うきうきフェスタ (特色のある行事) 科学技術館と北の丸公園に行こう	地域の状況に合わせた特色ある 行事の実施している。また、地 域との連携を図り行事を実施し ていることは評価できる。行事 の実施に当たっては、具体的な 数値目標等を設定し客観的な達 成状況が分かるように心がける こと。

②わくわくプラザ	<p>1 井田小学校わくわくプラザ 登録者数 441人 延べ利用者数 17,290人 (主な行事等) なわとび検定 わくわくプラザ探検隊</p> <p>(特色のある行事) ANA機体工場見学 (こども文化センターわくわくプラザ合同行事)</p> <p>2 下小田中小学校わくわくプラザ 登録者数 443人 延べ利用者数 15,071人 (主な行事等) おりがみ道場 カレーとシネマの日</p> <p>(特色のある行事) ANA機体工場見学 (こども文化センターわくわくプラザ合同行事)</p>	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。																														
評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
(3) 収支状況																																
① 収支状況	<p>(単位：円)</p> <table border="0"> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>44,436,603</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>39,761,716</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>2,980,970</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,937,847</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>47,702,520</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td></td> <td>▲ 3,265,917</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	44,436,603	支出	人件費	39,761,716		管理費	2,980,970		事務経費	1,937,847		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	47,702,520	差引		▲ 3,265,917	単館では支出が上回ったが、55館全体での指定管理料内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
収入	指定管理料	44,436,603																														
支出	人件費	39,761,716																														
	管理費	2,980,970																														
	事務経費	1,937,847																														
	その他経費	1,436,042																														
	青少年事業資産取得支出	909,090																														
	減価償却引当資産取得支出	40,492																														
	第1回精算に伴う返納金	636,363																														
	合計	47,702,520																														
差引		▲ 3,265,917																														

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。